

備投資、営業成績、要員、経理、財務等々経営活動のあらゆる部門にわたっており、しかもそれらが単なる数値だけでなく、それらのよってきた背景、状況説明についても記録がなされ、さらにはものによってはフィルムで残されているなど、多くのメディアを適切に活用して蓄積されている。さすがに戦争中といえどもその記録映画を残していた国の会社である。データ装備のレベルがわが国企業の一般と違うのである。

日々の企業活動の記録はそれらがいますぐ役立つものばかりではない。むしろ長期にわたり蓄積されてはじめて意味をもってくるもののほうがはるかに多いだろう。目先を追うあまり貴重なデータの記録を怠ることのないように心せねばならない。オペレーションズ・リサーチの立場からみると、ドキュメンテーションはいま、TDLにとって最も大切な業務のひとつであろう。幸い、TDL

はまだまだ新しいビジネスなので、外部のデータも含めて必要と思われるものを適切に記録し活用していきたい。

なお、オペレーションズ・リサーチは最終的に実務に役立つことが何にもまして肝要と思われる。

たとえ理論的には完全でなくても、問題解決に役立つと判定されれば、そのプロセスにおいて、またその結果において可とされねばならず、逆に理論がどのように精緻に構築されていようと、それが問題解決に無力であったなら満足すべきものとの評価は下せまい。しかし、理論を軽視しては、発展に限界があるのも事実である。その意味で、TDLでは、とりあえず、効果を期待して試行錯誤ともいえないかたちで問題解決を先行させてきたが、この辺で次なる飛躍を期すために、より一層問題解決に役立つより一層精緻な理論の構築に努力したいと考えている。



研究部会報告

出席者：20名

今回も、京都大学工学部数理工学教室と共催で次の講演会を行なった。

“中国におけるORの最近の話題”（桂湘云：中国科学院応用数学研究所）。

この講演では、第4回数理工学シンポジウムにおける同氏の特別講演を補足する形で、中国におけるOR、特に数理工学に関する研究の歴史と現状を詳しく紹介された。

●意思決定のための会計情報●

- 第6回 日時：11月5日(土) 13:30~16:30 場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：14名
内容：(1) 管理会計とOR（慶応義塾大学：伊藤和憲）
(2) 年度予算と多目標計画法（慶応義塾大学：福川忠昭）

●数理工学法（関西）●

- 第6回 11月11日．於：京都大学工学部数理工学教室
出席者：23名
今回は、京都大学工学部数理工学教室と共催で次の講演会を行なった。
“Sparse Matrices in Linear Programming”（Dr. A. J. Hoffman：IBMワトソン研究所）。
この講演では、与えられた大規模行列に対して、そのスパース性を最適にするような多項式アルゴリズムが説明された。
- 第7回 11月17日．於：京都大学工学部数理工学教室

●待ち行列システム●

- 第7回 日時：11月19日(土) 14:30~17:30 場所：東京工業大学（情報科学科会議室）、出席：27名
テーマと講師：
- Q S7-1 Reversible Markov ChainとそのStorage Model への応用（大澤秀雄・電通大）
一般のマルコフ・チェーンの reversibility の考察と、GI/G/1の待ち時間過程および危険準備金にともなう storage model への応用
- Q S7-2 離散近似の定常解の収束について（木村俊一・東工大）
GI/G/1の離散近似による数値解法に関する検討
- Q S7-3 待ち行列に関する関数方程式（片山勤・武蔵野通研）サーベイ